

殺 ダ ニ 剤 の 登 録 一 覧 表

(2025年用)

J A 全農山形 資材エネルギー部 肥料農業課

2024年10月31日 作成

薬 剤 名	ホ ルド ー 液 ・ 混 用	希 釈 倍 数															特 性	注 意 事 項	
		りんご	おうとう	も も	ぶどう	な し	きゅうり	トマト	な す	すいか	いちご	メロン	かき	菊 (花き)	食用 ぎく	ば ら			
ダニサラバフロアブル	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	・ハダニの全ての生育ステージに対して効果を示し、特に幼虫から若虫に対して効果がある。 ・天敵その他有用動物に対して影響が少ない。 ・ホルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。 ・アリエッティC水和剤、カルシウム剤と混用する場合、ダニサラバフロアブルを先に溶かす。 ・スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニサラバフロアブルは使用しない。 ・他に小粒核果類、ピーマン、花き類・観葉植物等で登録あり。	
スターマイトフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	・ハダニの全ての生育ステージに対して効果がある。 ・ダニサラバフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・有袋栽培の洋なしに使用する場合は、果実の葉斑が目立つおそれがあるので、袋かけ前の散布はしない。 ・ペフラン液剤、アリエッティC水和剤と混用する場合、スターマイトフロアブルを先に溶かす。 ・有用昆虫(ミツバチ、マルハナバチ、メメコバチ)およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ・他に小粒核果類、食用ほおずき、りんどう、ピーマン等で登録あり。	
ダニコングフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	—	3,000	3,000	3,000	3,000	2,000	2,000	—	2,000	・ハダニの幼虫・成虫に対して効果がある。 ・天敵その他有用動物に対して影響が少ない。 ・ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニコングフロアブルは使用しない。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・他にピーマン・花き類・小粒核果類等で登録あり。		
ダニゲッターフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	・ハダニ類の全ステージに効果があるが、特に卵・幼虫に対する効果が高く、残効性が長い。 ・運動的だが、成虫には不妊作用を示す。 ・ホルドー液との同時散布および前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので避ける。 ・新梢伸長期の日本なし(二十世紀を除く)に使用する場合は、以下の事項に注意する。 (1)豊水、新高、長十郎には新葉に薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 (2)有機リン剤との同時散布および10日以内の近接散布は新葉に薬害を生じる恐れがあるので避ける。 ・おうとうに使用する場合は、新梢伸長期に薬害を生じることがあるので、葉の硬化を持って使用する。 ・キャベツ、はくさい、こまつな、ねぎ、ばらに対して薬害を生ずる恐れがあるので、付近にある場合からないように注意すること。 ・開花期の水稲に本剤がかかった場合、不稔などの薬害を生じる場合があるのでかからないように注意する。 ・小粒核果類で登録あり。		
バロックフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	—	2,000	・成虫に対する活性はないが、卵・幼虫・若虫の各ステージに活性が高く長い残効がある。 ・ホルドー液散布14日前まで使用し、ホルドー液散布後は使用しない。 ・ぶどうの幼果期以降の使用は注意(果粉溶脱) ・すもも、花き類・観葉植物にも登録あり。		
マイトコーネフロアブル	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	—	・ミツバチ・壺およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ・ホルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。 ・なしに使用する場合は、6月以前の使用は避ける。また、高温・乾燥時には薬害を避けるため使用しない。 ・小粒核果類、ミニトマト、ピーマン、食用ほおずきにも登録あり。		
コロマイト水和剤	○	2,000	—	—	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	・壺に長期毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。 ・ミツバチに軽度の影響があるので注意すること。 ・乳剤は展着剤によっては薬害を助長する場合がありますので汎用性展着剤以外の使用は避けること。 ・乳剤は作物によってはコナジラミ類、トマトサビダニ、ハモグリバエ等に登録あり。 ・乳剤は小粒核果類、ピーマン、ミニトマト、食用ほおずきにも登録あり。		
コロマイト乳剤		1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,500	1,500	1,000	(観株株)	1,000	1,000	—	1,500	—	—		
コテツフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	・ぶどうは収穫60日前までの使用なので注意する。 ・壺・ミツバチへの影響があるので、使用の際は注意する。 ・ハクサイ・ダイコン・きゅうり・なすの幼苗期は薬害の恐れがあるので使用時は注意。 ・かき(刀根早生など)の着色期の散布は薬害を生じる恐れがあるので使用を避ける。 ・オクラではオオタバコガで登録あり。 ・スイカではミナミキイロアザミウマにも登録あり。 ・小粒核果類、ミニトマト、ピーマン、花き類・観葉植物(きく、ストックを除く)にも登録あり。		
ピラニカEW	○	—	1,000	1,000	—	—	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	1,000	—	2,000	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) ・サンマイト・ダニトロンは交差抵抗を示すので連用は避ける。 ・壺に対して影響があるので桑葉にかからないようにする。 ・バラの新展開葉に薬害が生じることがあるので薬剤がかからないようにする。 ・EWは花き類・観葉植物(カネシヨウ、きくを除く)で登録あり。		
ピラニカ水和剤		1,000	1,000	1,000	(大粒種) 2,000	1,000	—	—	—	—	—	—	2,000	—	—	—	—		
サンマイト水和剤	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	—	—	—	—	—	1,000	—	—	—	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) ・壺・ミツバチに対して影響があるので注意する。 ・ダニトロン・ピラニカは交差抵抗を示すので連用は避ける。 ・フロアブル剤は、ピーマン、えだまめ、食用ほおずきのコナジラミ等に登録あり。 ・水和剤はすもも、キウイフルーツに登録あり。 ・フロアブル剤は、キュウリ・メロンに使用する際は極端な高温期や幼苗期は新葉に薬害を生じる恐れがあるため避ける。		
サンマイトフロアブル		—	—	—	—	—	1,000	—	—	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	—	—		
ダニトロンフロアブル	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) ・サンマイト・ピラニカは交差抵抗を示すので連用は避ける。 ・石灰硫黄剤との混用は避ける。 ・壺に長期間毒性があるので桑葉にかからないように注意する。 ・花卉類では花に薬害を生じる場合があるので、花や蕾に薬剤が付着する恐れのある時期には使用を避ける。 ・キウイフルーツ、うめ、ミニトマト、ほうれんそう、ピーマン、花き類・観葉植物にも登録あり。		
カネマイトフロアブル	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	—	・アリエッティCと混用する場合は、カネマイトを先に希釈し混用する。 ・天敵・有用昆虫に対する影響が少ない。 ・ホルドー液などのアルカリ性の強い薬剤との混用は避ける。 ・ぶどうに使用する場合は、落花20日以降袋掛け前までの散布は果粉溶脱や汚れを生じることがあるので注意する。 ・うめ、すもも、うり類(漬物用)、ピーマンにも登録あり。		
ダニオーテフロアブル	×	1,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	—	2,000	・天敵・有用生物への影響が少ない。 ・銅を含む製剤との混用および近接散布で効果が低下する恐れがあるため、以下に気を付ける。 ①混用を避ける ②ダニオーテ散布から銅剤散布までは10日以上間隔をあける ③銅剤散布後は散布しない。 ・小粒核果類への登録あり。		
アカリタッチ乳剤	×	2,000	2,000 ~ 3,000	2,000	2,000	2,000	2,000 ~ 3,000	2,000~ 3,000	2,000~ 3,000	2,000~ 3,000	2,000~ 3,000	2,000~ 3,000	2,000	—	2,000 ~ 3,000	—	・本剤は害虫を窒息させる気門封鎖剤であるため、卵には効果がなく、また残効性が期待できないので、5~7日間隔での連続2回散布や、他剤とのローテーション散布を行う。 ・本剤は散布液が直接害虫にかからないと効果がないため、害虫にむらなくかかるよう、葉の表裏へいねいに十分散布する。 ・展着剤は薬害回避のため加用しない。 ・散布液が溜まるような状態では、油浸状・茶褐色の薬害(イチゴの果実等)が発生することがあるので、薬液の乾きやすい時に登録範囲内の少ない使用量で散布する。 ・高温時や日射の強い時間帯または寒暖の差が激しい時期の散布は避ける。 ・おうとうでは果実黄化期や黄色品種(月山錦など)は果実に薬害を生じる恐れがあるので使用を避ける。 ・日本なしに使用する場合は、果実に薬害を生じるおそれがあるので、使用濃度を厳守し、特に幼果期の散布はさける。		

※本資料作成以降に農薬の適用内容が変更になる場合もあるため、ご使用される際にはラベルの登録内容を再度ご確認ください。なお、記載している希釈倍数については、登録濃度の高い希釈倍数のみを記載しています。
 ※各薬剤共、ホルドー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるようなので留意願います。
 ※殺ダニ剤は抵抗性回避のため各薬剤共、年1回に厳守願います。